

松阪市地域包括ケア推進のための

第2回 多職種勉強会

介護・医療・福祉など様々な分野の専門職のみなさんと協働を図るため、27年2月19日に第2回多職種勉強会が県松阪庁舎において開催され、125名の参加がありました。



～リハビリ専門職 活用のすすめ～

第1部の研修会では、理学療法士の木村圭佑さんのミニ講座と医師の藤井秀子さん、主任ケアマネの青木浩乃さんより、それぞれの立場からリハビリに対する印象や実態について話題提供がありました。

第2部は、参加者125名が12グループに分かれて「リハビリについて日頃感じていることなど」素朴な疑問や質問をだして、リハ職への関心を高め交流することができました。

リハ職と一口に言っても、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・柔道整復士・健康運動指導士など職種も働く職場も多岐に渡っていて、リハ職を知っていただく良い機会になったという感想多くありました。顔の見える関係づくりからはじめ、リハ職が高齢者のために果たせる役割をもっと知りたいと感じることができました。



第2部：グループワーク



家族の意向で内容が決まってしまうことがある。本人の希望は、聞いているだろうか？

嚥下障害のある方の支援とかで、言語聴覚士・栄養士・市か衛生士などが、もっと関係性を深められると思った。



リハビリについて、解らない事がたくさんあることがわかった

10年前に比べると、リハ職の人たちと連携を取る回数が増えてきた。少しづつ顔の見える関係が出てきた。



【アンケート結果：参加者125名中、104名より回収】

研修会の内容について		グループワークについて	
とてもよかった	57 (54.8%)	とてもよかった	64 (61.5%)
よかった	42 (40.4%)	よかった	32 (31.7%)
ふつう	1 (0.1%)	ふつう	2 (1.9%)
		あまりよくなかった	1 (1.0%)
未記入	4 (3.8%)	未記入	5 (4.8%)

【リハ職のイメージは？】

リハ職は病院にいるイメージ。急性期・回復期・生活期など、リハビリに違いがあることがわかった。リハ職さんが患者さんのことをこんなに深く考えていることがわかった。地域の方がもっと気軽にリハ職さんに相談できるツールがあると良い。リハ職について、市民に、多職種にも、もっと知ってもらうことが大切。PT・OT・STなど職種の違いもあり、対象者や勤務場所によっても内容が様々だとわかった。

【介護と医療の連携で困っていることは？】

担当ケアマネと医療機関の連絡が取りにくい。情報共有が難しい。時間帯が難しい。

★松阪地域の「地域包括ケア」をすすめるため、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

事務局：松阪市健康ほけん部高齢者支援課 電話 53-4427、53-4099